

三中だより

令和6年度 12月号



令和6年12月6日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 11)
校長 小柴 憲一

給食試食会から ～給食の強み～

9月25日に実施した給食試食会には30名の保護者の方にお越しいただきありがとうございました。保護者アンケートの中に「前回抽選が外れてしまったので、今回参加できて良かったです。希望者全員参加できるように人数を増やすことができると良いと思いました」というご感想がありました。本校にはランチルームという場所がなく、最も大きい教室である多目的室に収容できる人数で実施しておりますので、今後検討してまいります。制限が出てくることに関しましてはご理解いただければと思います。また、実施する日は、一学年が宿泊行事を行っていて、調理数が少なくなるときに設定しておりますので、私個人としては、「決して参加することができない給食試食会」として、とても残念な思いですが、いたしかたないとあきらめております。

保護者アンケートの中には「とにかくよく食べます。作る量が追いつきません。」とその光景が目につくようなご意見もありましたが、お子さんの野菜・サラダの食事についてお困りになっているご意見が多いと感じました。「学校給食のサラダは美味しいと言って良く食べるのに、家では食べない。」のようなご感想をもたれている保護者の方が数人いるようです。また、給食で提供する野菜は、ミニトマトなどの一部を除き一度加熱しなければならないと定められているので、そのことに興味をもたれた方、またドレッシングのレシピを知りたいと思われた方もいらっしゃるようです。11月の給食だよりで、「野菜をゆでることで野菜の臭みや苦みが弱まり、食べやすくなっているのではないか」というご回答と、中華風ドレッシングと和風大根おろしドレッシング2種類のレシピを掲載させていただきました。

私が思うに、野菜をゆでると野菜のかさが減りますので、配膳するときは小椀に一盛りですが、生だったらボールに一盛りの量を子どもたちは食べていることになります。ゆでると、水溶性のビタミンなどが多少流れてしまうことは考えられますが、それよりも多くの野菜を食べることの方が、子どもたちの食生活に対しては良いことだと思います。

さて、もう1つ私が皆様にお伝えしたいこととして、「給食の強み」があります。

給食だよりには、それぞれのドレッシングに合わせ、サラダの例として「春雨サラダ」「和風コーンサラダ」を紹介いたしました。その食材は以下の通りです。

春雨サラダ	春雨、ロースハム、わかめ、にんじん、きゅうり など
和風コーンサラダ	もやし、ホールコーン、小松菜、きゅうり、だいこん など

一家族4人だと仮定して、上記の食材を4人分だけを洗って刻んでゆでたり、缶から取り出したりした場合、残った食材をどうすればいいのでしょうか。また、例えばにんじん1本を使ったとしたら、春雨サラダというより、にんじんサラダになってしまうのではないのでしょうか。

これは、たくさんの種類の食材で4人分だけを作ろうとするから起きる悩みなのです。

その点、給食の場合は、約500人分を作るわけですから、食材の種類がたくさんあることは何の問題もないことで、調理員さんは必要なにんじんやきゅうりなどの数だけ、ひたすらに刻んでゆでて水冷し、大きなボールに入れたあと、混ぜていけば良いのです。

食材が豊富な料理でも、それぞれの食材が一人一人にとって適度な量となり、食べたときに美味しいドレッシングと合わさって、様々な味と食感を味わうことができるのが給食の強みなのです。

これは、サラダに限ったことではありません。

11月の献立から抽出すると8日(金)の「みそけんちん汁」、18日(月)の「さつま汁」、21日(木)の「どさんこ汁」など、一つのお椀にたくさんの食材が入る汁物でも同じことが言えるのです。ご家庭で同じ種類の食材を使ってこれらの汁物を作ると、もしかすると翌日の朝・夜と食べないとならない量になってしまうのではないのでしょうか。

食材の種類が豊富なサラダや具だくさんの汁物など、ご家庭ではなかなか作ることに躊躇してしまう料理を、給食では、約500人分作するという強みを生かして子どもたちに提供しているのです。

本校が調理業務を委託しているのは「HITOWA フードサービス株式会社」といいます。調理員の皆様にとっては、万全のアレルギー対応をしながら、夏は暑い調理室の中で業務をし、学校の45分授業などの時間の変更にも対応していくのは、とても大変なことだと思います。しかし、それでも子どもたちが完食してくれることを喜びとして、毎日、安全で安心できる給食を提供してくださっていることに、深く感謝申し上げます。

人権課題「外国人」 ～人種・皮膚の色・民族の違いなどによるあらゆる差別をなくす～

昭和23年(1948年)12月10日、国際連合第3回総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されました。世界人権宣言は、基本的人権尊重の原則を定めたものであり、人権保障の目標や基準を初めて国際的にうたった画期的なものです。採択日である、来週火曜日の12月10日は、「人権デー(Human Rights Day)」と定められています。

法務省の人権擁護機関では、昭和24年(1949年)から毎年、人権デーを最終日とする1週間(12月4日から12月10日)を「人権週間」と定め、その期間中、各関係機関及び団体とも協力して、全国的な人権啓発活動を特に強化して行っています。

我が国でも人権問題は散見されています。

いじめや虐待、性被害等の子どもの人権問題、インターネット上の人権侵害、障害のある人や外国人、性的マイノリティ等に対する偏見や差別、部落差別(同和問題)、ハンセン病患者等の問題といった多様な人権問題が依然として存在しているのが現実です。

これらの問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、自分以外の「誰か」のことでなく、自分事として捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。

さて、今年度は人権課題「外国人」を例にとって考えてみます。

1 外国人が集まる首都東京

東京には、これまでも在日韓国人・朝鮮人をはじめ多くの外国人が暮らしてきました。そして、東京で暮らす外国人の国籍は多様になり、令和5年1月1日現在、約58万人で、都民のおよそ24人に1人に及んでいます。小・中学校で考えれば、1クラスに1～2人の外国人が在籍している計算になります。

観光や仕事で訪れる外国人も含め、様々な国から東京に集まる人々は、多様な文化や価値観、ライフスタイルをもち、これが東京の伝統文化と相まって、国際都市東京の活力を生み出しています。

2 外国人に対する差別問題

多くの外国人が暮らす東京ですが、言語、文化、宗教、生活習慣などの違いやこれらへの無理解から、外国人に対する差別や偏見が見られます。例えば、住宅の賃貸や商店などの入店を断る、外国人というだけの理由で、就労に関して不合理な扱いをするということが起きています。また、このような大人たちの姿とは別に小学校の低・中学年などでは、まだ知識がないという発達段階が原因で、外国籍の子どもの特徴的な名前の発音や表記を指摘するなどの言動も起きていると聞きます。

意図する、しないとは関係なく、こうした閉鎖的な態度や差別は、外国人の人権を傷つけること

になるとともに、肌の色を問題とするのは、人格的利益の侵害であるとの判決も出されています。

研修制度を悪用し、外国人の実習生に契約どおりの賃金を支払わなかったり、研修生に対して暴行したりするなどの事件も最近ありました。

さらに、良い仕事があるとだまして海外から女性を連れてきて、暴力や借金で拘束し風俗店で働かせた人身売買組織も摘発されています。

3 外国人と共生する社会

我が国は、難民の地位に関する条約、人種差別撤廃条約などを締結しています。

人種差別撤廃条約では、人種・皮膚の色・民族などの違いによるあらゆる差別をなくすための必要な措置が義務づけられています。措置として、東京では、外国人からの様々な生活相談に応じるとともに、外国人に対し東京における社会生活のルールの特啓発を行っています。また、都民全体に対し、外国人への理解を深め、偏見や誤解をなくすよう啓発を進めています。

外国人と日本人が互いを尊重し合いながら強制できる社会を築くためには、私たち一人一人が、それぞれの文化や生活習慣の違いを認め合い、多様性を受け入れていかなければなりません。

4 都立高等学校入学者選抜における変更

令和7年度入試において、在京外国人生徒等を対象にした入試を実施する学校や応募資格に一部変更がありました。

まず、実施する学校は令和6年度入試までは8校でしたが、令和7年度入試では従来の8校に4校が加わり12校に拡大されました。

また、応募資格は令和6年度入試では「外国籍を有していること」が要件でしたが、令和7年度入試では、「国籍を問わず、日本語指導が必要な者」と範囲が広がるとともに、令和6年度入試では「入国後3年1か月までを入国後3年以内」として応募資格として認めておりましたが、令和7年度入試では「入国後3年3か月までを入国後3年以内」と入国後の在日期間を延長しました。

このように、教育の中でも制度上の外国人もしくは外国にルーツのある子どもたちへの措置の緩和などが行われているところです。

5 学校では

冒頭、「1クラスに1～2人の外国人が在籍している計算になる」と申し上げましたが、都内の地域性によって大きく異なります。都内のある学校では、全校在籍数の半分以上が外国籍もしくは外国にルーツをもつ子どもで占めている場合があります。そのような学校では、日本語学級などを併設しており、通学する学校において日本語指導を受けられる体制をとっています。

本校の場合は平均的な在籍数であり、最も重要と考えているのは、当該の子どもたちが「自分たちはマイノリティだ」と萎縮してしまったり、自己表出を制限してしまったりしないよう、他の子どもたちと同じ学級や学年の一員、生徒会の一員としてみていることです。小学校の低・中学年などでは、特徴的な名前の発音や表記を指摘するなどの言動も起きているとは聞きますが、中学生という発達段階では、他者を尊重し多様性を認める態度が養われていることを期待して、「あえて〇〇さんは・・・だけど、皆さん仲良くしてくださいね」などの特別な指導はむしろしない方が効果的と考えております。

ただし、外国からの転入生で、日本語が全く理解できない子どもの場合は、学級や学年にその状況を説明した上で、子どもたちの「やさしい日本語」による話しかけを促すとともに、荒川区の日本語指導という制度を活用して、日本語の習得を保護者の方にご提案し、保護者と本人の同意のもと、他機関に行き日本語指導を受けさせるようにもしております。

地域でも、外国人が引っ越してくるようなことは多々あるのではないかと思います。そのような方々は一定の不安を抱えての居住となっているはずです。保護者の皆様・地域の皆様で汐入のコミュニティの仲間として快く受け入れていただくとともに、ゴミの分別や収集日、団地の場合は団地内の習慣、都内や都外に出かけるときの交通経路など、外国からお越しになった方々は知らないことばかりだと思いますので「やさしい日本語」で教えてあげ、汐入地区を第二の故郷だと思っていただけのようなご配慮をしていただけると幸いです。

お知らせ

- 11月号でお知らせした中学生の「税の標語」の入選作品に誤りがありましたので、改めて紹介いたします。

荒川区間税会入選 3年 上野 優真 作品:踏み出せば 未来広がる 税の道
 3年 土田 瑛太 作品:その税金 誰かの笑顔を 作り出す
 3年 湯浅 梨央 作品:私たちの税金で いい国つくろう 今も未来も

- 令和6年度中学生の「税についての作文」審査において、以下の成績を収めました。

年	氏名	作品名	賞
3	柄澤 怜花	税金が安心の源に	東京納税貯蓄組合総連合会会長賞
3	湯浅 梨央	税を学ぶ意義	荒川税務六団体協議会会長賞
3	瀬木 勇斗	中学生と税金	荒川納税貯蓄組合連合会会長賞
3	大越 響心	税金と教育	荒川納税貯蓄組合連合会優秀賞
3	木下 心愛	税金の大切さ	荒川納税貯蓄組合連合会優秀賞

- 令和6年度薬物乱用防止ポスター・標語荒川区選考において、以下の成績を収めました。

ポスターの部 佳作 大森 美空(2年)
 標語の部 地区会長賞(東京都推薦作品) 風間 琉聖(3年)
 佳作 小池 帆夏(3年)

- 令和6年度明るい選挙ポスターコンクールにおいて、以下の成績を収めました。

荒川区入選 丹野 綾音(2年) 荒川区佳作 樋口 結人(1年)

- 令和6年度「人権作文」審査において、以下の成績を収めました。

最優秀賞(東京法務局長賞) 宇田 華都(3年) 作品:子どもの権利
 ※ 荒川区代表作品となり、その後、台東区・文京区・北区・荒川区の部会の代表を経て、東京都大会審査会で最高の賞を受賞しました。

- 第14回荒川区図書館を使った調べる学習コンクールにおいて、以下の成績を収めました。

賞	学年	氏名	作品名
教育委員会賞	3	杵島 希	自分を壊すネット依存
校長会賞	2	前田 万葉	トトロと考えるヤングケアラー
	3	湯浅 梨央	女性社会進出の第一歩
奨励賞	3	小池 帆夏	気象災害と防災 ～もしもに備えてできること～
佳作	2	犬上 直人	真の平等 ユニバーサルデザイン

- 令和6年度荒川区中学生新人卓球大会において、以下の成績を収めました。

1年生男子個人戦 第3位 高橋 慶人

- 第16回「木と合板」写真コンテストにおいて、以下の成績を収めました。

学生奨励賞 松月 透理 作品名:ウッドライブラリー

- 第73回荒川区民体育大会バドミントンの部において、以下の成績を収めました。

中学生男子ダブルス 優勝 佐藤 壮馬・杉谷 天稀

中学生女子ダブルス 第3位 小倉 菜々子・正岡 凜南

- 12月3日に実施された「令和6年度歳末たすけあい・地域福祉募金おける街頭募金」のボランティアに、以下の子どもたちが応募しました。

1年 林 亜美佳、潘 欣怡、河野上 大嘉、毛利 航、清水 奏風、松田 悠矢、石井 諒佑、増田 柊司、本山 和歩、

2年 並木 苺衣、飯野 愛麻、城崎 千寧

- 令和7年1月12日に開催される「新春タコあげ大会」のボランティアに、以下の子どもたちが応募しました。

1年 掛川 大輝、中山 雄翔、林 亜美佳、潘 欣怡、井波 紗和、石井 諒佑、今井 葉菜、児玉 こまち

**地域・保護者の皆様、本年も大変お世話になりました。
 来年もよろしく願いいたします。**